

令和2年 4月 10日

2019年度授業アンケートの評価について

1学期に関しては調査対象とした49科目中43科目(87.8%)から、2学期に関しては44科目中41科目(93.2%)から回答が得られており、回答率の着実な向上が認められた。

2019年度は前年度と比較して、ほとんどの項目で1学期、2学期共に肯定的な回答の割合が上昇しており、本学院の授業内容やレベルは適切な水準を維持した上でさらに向上していると判断できる。シラバスに関連する設問1~3すべてにおいて、「強くそう思う」、「そう思う」との回答は9割前後に達しており、各教員がシラバスに基づいた講義を着実に実施していることがわかる。また、設問5~10における教員の説明、話し方、学生との双方向コミュニケーションなどに関する設問においても、8~9割の学生から肯定的な回答(「強くそう思う」、「そう思う」)が得られている。

「授業への出席率(設問11)」に関しては、9割以上の学生が授業に80%以上出席したと回答しており、かつ「ほぼ100%」と回答している割合も前年度より増加している。また、「授業が満足できるものであったか(設問15)」との問いに対して「強くそう思う」、「そう思う」と回答した学生の割合も両学期ともに9割前後に達している。学生の主体的な学習意欲に関しても、設問12「質問、発言、調査、自習などによる、授業への積極的な参加」や設問14「授業による知的刺激、さらなる勉学意欲」の項目で前年度より肯定的な回答が増加している。さらに、ここ数年の懸念事項であった「授業1回の予習や復習に費やす時間(設問13)」では、最も少ない「1時間未満」と回答する学生が前年度と比較して減少し、2時間以上取り組んでいる学生の割合が増加しており、勉学意欲の向上が認められる。次年度以降もひきつづきこの傾向を維持できるよう留意しながら授業運営を進めていく必要があると考える。

以上から、本学院の授業運営は堅調に行われていると評価でき、本学院の目的に沿った研究者ならびに高度専門職業人の養成を推進するための向上を今後も図っていく所存である。

北海道大学大学院環境科学院

学院長・教務委員会委員長・教授 大原 雅

執行部室・特任助教 川西 亮太